

研推だより

令和5年6月28日(水) NO. 2
府中市立府中第二小学校
研究推進部

1 確認

(1) 研究主題

主題 自分の考えを言葉で表現し、学び合う児童の育成～国語科「話すこと・聞くこと」を通して～

(2) 研究授業日及び授業者

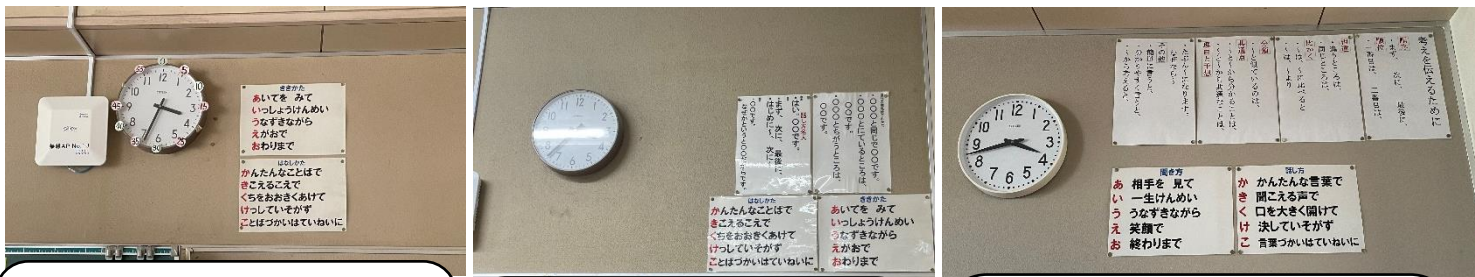
- ・ 研究授業① 9月20日(水) 4年生
- ・ 研究授業② 10月25日(水) 5年生
- ・ 研究授業③ 11月29日(水) 仲よし学級
- ・ 研究授業④ 1月31日(水) 1年生

(3) これまでの研究の成果を活かして

研究主題は変わりましたが、昨年度まで積み上げてきた校内研究の成果については、今年度も継続していきましょう。(特に以下の2点について。)

① 話すこと・聞くことのポイントを示した掲示物

教室前方に、話すこと・聞くことのポイントの掲示をお願いします。日々の授業の発表場面等で、児童への価値付けをする際の視点として活用していきましょう。(なければ、自分の学年の研推まで)



低学年

- ・ はなしかた「かきくけこ」
- ・ ききかた「あいうえお」

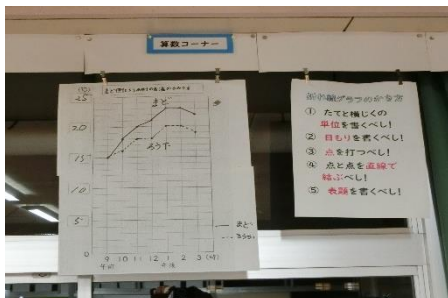
中学年

- ・ はなしかた「かきくけこ」
- ・ ききかた「あいうえお」
- ・ 話し方名人
- ・ 自分の意見はどれかな

高学年

- ・ はなしかた「かきくけこ」
- ・ ききかた「あいうえお」
- ・ 考えを伝えるために

② 算数コーナー



昨年度の校内研究の手立てとして全学級において、教室の一角に算数の既習事項を掲示する「算数コーナー」を設けました。こちらについても今年度も継続して取り組んでいきましょう。('算数コーナー'のカードは後日配布いたします。)

① 国語の授業づくりの難しさ

→教師も児童自身も「伸び」を実感することが難しい面がある。

- ◎ゴールを明確に：「何が」「どのように」できることがゴールなのかを明確にしていく
- ◎先生自身が授業づくりを楽しみ、子供たちがわくわくする授業を。

② 「自分の考えを言葉で表現し、学び合う児童の育成」のために

→まずは「考えをもつ」ことができるようにする。

→自然と話し合いたくなる話題設定/場面設定し、話し合いのゴールを明確にする。

◎同じ土俵に乗せるための「情報」(話し合いのタネ)の共有する場面を設定することで、自分の考えをもつことができるようになる。

◎話し合いたくなる場面を意図的に日々の学習の中で設定していく。

- ①しぼる(複数の中から、一つのことを決める場面)
- ②分担する(複数の役割を分担する場面)
- ③確かめる(自分の考えの正しさを他者と確かめ合う場面)
- ④相談する(問題点や課題点について他者と考え、解決策を導く場面)



→・相談事は解決策を考えることできる相手が重要なので、意図的なグルーピングが必要。

・「解決」するまでが相談。時間で切る話し合いではなく、解決するまでに意義がある。ただし時間的制約もあるので、「新しい考えを3つ出せたら」等、相談のゴールを示すと良い。

③ 他者に分かりやすく伝える/聞く力を伸ばしていくためにはどうしたらよいか。

→「分かりやすさ」とはどのような姿なのかを明確に児童に示す必要がある。

◎教師がモデル(よい例/悪い例も)を示し、児童がイメージできるようにする。

→子どもの「できる姿」「できている姿」を価値づける→憧れの存在をもたせる

→「もっと話したい。聞きたい。」

④ 今日的教育課題との関連について

→「主体的・対話的で深い学び」/「個別最適化」→「話し合い」「学び合い」で充分対応できる。

◎だからこそ「話し合い」「学び合い」の時間を充実させていくことが大切。

⑤ 評価について

→評価の視点を明確にもった上での評価が重要。なるべく具体的に児童の姿をもつ。

◎教師が示したモデルを評価の観点にする。

◎評価方法：実際の児童の姿+発表メモ/聞いたメモの活用/タブレットでの録音、撮影動画からの評価など、総合的に評価していくと良い。